



1. 気象経過と生産への影響

- 経過：冬季 小雪 ⇒ 春季 高温・少雨 ⇒ 梅雨明け観測史上最速（6/29）⇒ 7月～お盆前 異常高温・干ばつ ⇒ 8/24 台風 20 号 ⇒ 9/4 台風 21 号 ⇒ 8 月下旬多雨 ⇒ 9 月低日照・多雨 ⇒ 10 月低日照・少雨 ⇒ 11 月高温・少雨 ⇒ ラニーニャ現象で暖冬

- 果樹類の開花期：昨年より 7～10 日早く到達 ⇒ H28 並み

品目名	りんご	もも	ナシ	プラム	サクランボ
H30 満開日	4/24	4/17	4/20	4/12	4/19
昨年差	△11	△7	△10	△8	△7

- ① 1～6 月合計降水量：372.5 mm・平年比 82% ⇒ 初期の玉肥大停滞
- ② 梅雨期間の異常少雨：38.5 mm（極小）⇒ 玉肥大停滞
- ③ 開花期（4 月）の異常高温：平均気温 12.1℃（平年比+2.7℃）⇒ 開花期の大きな前進
- ④ 7 月特記：猛暑日 7・平均気温 26.0℃（観測史上最高）・降水量 104 mm（平年比 61%）・日照量平年比 150% ⇒ ハダニ・重度の日焼け多発
- ⑤ 8 月特記：猛暑日 6・最高 37.1（8/22）・降水量 167.5 mm（平年比 91%）
- ⑥ 台風 20 号（8/24）：最大 18.4m/s（南南西）観測 ⇒ 落果被害・品質低下有り
- ⑦ 台風 21 号（9/4）：最大 23.6m/s（南南東）観測 ⇒ 落果被害多（りんご全体の 20%）
- ⑧ 9 月の多雨・低日照：降水量平年比 130%（多）・日照量平年比 53%（極小）
- ⑨ 低日照（9～10 月）：225.5h 平年比 68.8%（極小）・晴天日非常に少なく経過
- ⑩ 11 月特記：高温・少雨⇒10～11 月降水量 44.0 mm・平年比 28.4%（極小）

- りんご生産量及び平均糖度（統計 By 堀内 New）

品目名	つがる	リップ	秋映	スイート	ゴールド	ふじ
生産量（見込） （昨年比）	76% 70 トン	—	91% 270 トン	99% 130 トン	133% 140 トン	122% 860 トン
平均糖度（%） （）は昨年度	13.2 (12.2)	14.3	13.6 (13.1)	15.0 (14.4)	14.6 (14.1)	15.5 (14.8)

- ① 台風被害：全体で 20%程度の減収と見込まれる。
- ② 糖度：全体に昨年より 2%弱上回る ⇒ ふじ平均糖度過去最高
- ③ 早生種（つがる）：雪害・面積減・収穫前ロス等あり⇒昨年比 76%。
- ④ 中生種：結実良好・台風により減収（特に秋映）・品質低下あり・ゴールドロス少
- ⑤ ふじ：台風により減収・品質低下大。大玉率高く経過⇒昨年比 122%で終了。

● 収穫期開始・果実品質等



開花期が昨年比 7～10 日早かったため、全体の収穫・出荷時期も同様に経過中。

品目名	収穫開始予想
りんご	極早生：恋空 8/1～・夏あかり 8/3～ 早生：つがる 8/17～・シナノリップ 8/20～・すわっこ 9/7～ 中生：秋映 9/25～・スイート 10/1～・ゴールド 10/10～ 晩生：ぐんま名月 11/1～・シナノホッペ 11/5～・百年ふじ 11/5～・ふじ 11/10～
もも	早生：たまき 7/10・あかつき 7/27 中生：なつっこ 8/5 晩生：川中島 8/19・黄金桃 8/22・白根 9/5・GP9/15
ナシ類	幸水 8/21～・豊水 8/30～・あきづき 9/5～・南水 9/10～22 オーロラ 8/20～・バラード 9/10～・ラフランス 9/20～30
プラム	大石 6/20・紅 7/10・静香 7/10・サマーE7/20 貴陽 7/30・太陽 8/10・秋姫 9/1

- ① 開花期が昨年比 7～10 日早かったため、全体の収穫・出荷時期も同様に経過中。
- ② 梅雨明け後の異常高温により、全品種で日焼け果（重度）が多発。
- ③ 玉肥大：6 月の少雨・摘果の遅れにより初期肥大停滞 ⇒ つがるでは 8 月に入り玉肥大が回復。中生種・ふじ等でも収穫直前に玉肥大回復基調。
- ④ つがる：夏季の異常高温により着色不良が顕著 ⇒ 生育が早いこともあり 8 月末時点集荷量は昨年比の 250%。果肉水分含有量は少なかったが日持ち性は悪い状況であった。日焼け果が多かったが、炭そ病被害果はほぼ無発生であった。平均糖度は 13%前後と昨年を上回る。
- ⑤ シナノリップ：本年から一定量の収穫あり。着色は良好であるが、高温障害発生 ⇒ 果実の黄変無着色落果発生等
- ⑥ 中生種：昨年比 7 日早い。炭そ病発生は少ない。台風 21 号による落果多。枝スレ多発等品質低下も著しい模様。秋映ではサビの胴サビ果の発生が多い。スイートでは重度の日焼け果発生多い。ゴールドはロスが少なく。平均糖度は昨年比 1～2%高い。
- ⑦ ふじ：全体的な結実量は確保されていたが、台風 21 号による落果多数。黒星病被害は昨年より少ないが、果実被害は 5 月下旬から発生。重度の日焼けが 7 月以降多発。

秋季の低日照・多雨等で着色不良（遅れ）顕著。蜜入りも平年より遅れる。お盆以降玉肥大は促進はある程度促進され、収穫期まで肥大は進んだ模様。全体には昨年より大玉傾向で経過。

輪紋病小発・ツル割れ小発。

11 月は晴天が続き収穫作業は順調に消化できた模様。収穫開始は平年並みでピークは 11/20 すぎ。

収穫直前まで果実肥大進む。共選結果：32 玉（25%）＞36 玉（19.5%）＞28 玉（17.4%）

1. 病害虫特記

病害虫名	発生時期	発生程度	対策
黒星病	5/25～	小～中	発芽後からの予防散布徹底
うどんこ病	5月上旬～	多	越冬源（病原）除去・早期予防散布
褐斑病	9月～	小～中	梅雨時期防除徹底・8月下旬～予防強化
炭そ病	9/20～	無～小	梅雨時期防除徹底・被害果早期除去
輪紋病	10/10～	小	梅雨時期防除徹底・いぼ皮削り他
シンクイムシ類	7月上旬～	小～中	5月～9月薬剤散布徹底
ハダニ類	6月下旬	多	6月下旬からの早期予防散布徹底
腐らん病	3月～	多	秋映等で非常に多い

◆ 黒星病

5/10 頃葉病斑発生 ⇒ 5/25 頃果実感染発生 ⇒ 一定の潜伏期間を経て6月上中旬頃果実被害発生目立つ。6月前半の少雨に助けられ、急激な感染拡大はなく、全体での発生は昨年より少ない模様。長野県で初めて黒星病 DMI 剤耐性菌確認される ⇒ 次年度の防除強化が必要不可欠。

◆ ハダニ類

異常高温により、6月下旬～お盆前まで全域で多発状態。葉の褐変・黄変落葉発生。ハダニ類の生育サイクルも非常に早かった(5日?)。お盆以降は小康状態に入った。今後も温暖化により早期多発が心配されるため、生育の進んでる年度は6月下旬からの殺ダニ剤散布が必要。

◆ うどんこ病

5月の少雨・乾燥で感染拡大。越冬源も非常に多く、紅玉等ではかなりの被害あり。薬剤散布と並行して越冬源（病原）の除去が不可欠。

◆ 炭そ病・輪紋病：感染期の梅雨が少雨であったため、中生種で炭そ病の発生は少なかった。ふじの輪紋病の発生も平年より少ない。

◆ シンクイムシ類・カメムシ類

果実表面を加害するスモモヒメシンクイの被害は現状では昨年より少ない。カメムシ類の被害は5月に多かった。果実被害が多い園地では越冬数も多く、次年度の早期多発が心配されるため早めに段階(5月)からの防除が必要不可欠。効果薬剤：合ピレ系（バイスロイド・イカズチ・アーデント他）・ネオニコ系（バリアード・ダントツ他）

百年ふじ 品種特性

品種名	交配・来歴等	収穫時期	貯蔵性	特性
百年ふじ	らくらくふじ枝変わり	11 月上中旬	常温で約 3 カ月	濃赤色で縞が不明瞭 11 月初旬収穫可能

越の荻原安治さんが三島系ふじの中から選抜・育成した優良系統。苗木販売元の（株）天香園の百周年を記念して、百年ふじと名付けられました。

数多くのふじ系統のなかでも色上がりが格段に早く、10 月末には濃赤色に仕上がりと、糖度も上がりや蜜入りも早いと、11 月初旬にはまとまった量の収穫ができることが最大の特徴です。H29 の秋の日照不足により、ふじ全体に着色遅れが顕著な中、百年ふじの色上がりはひと際早く、園地の中でも目を引く存在でした。5 年前から生産振興を始め、現在では市内各地で百年ふじが栽培され、生産者側からも高評価を得ています。百年ふじは地域適合性が非常に高い系統であると言えます。平成 30 年春に JA 中野市りんご・もも部会では、百年ふじを大黒柱に生産基盤の再構築を図ること決定しました。

◆ 年度別苗木導入数（マルバ）

6 年間合計 3,500 本 ⇒ 面積換算約 17.5ha

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
百年ふじ	456	500	473	496	465	1,110	3,500

【百年ふじの里構築への経過】

- ◆ H20～：現地検・栽培試験開始 ⇒ 組織的導入に 5 年を要する
- ◆ H25～：百年ふじ苗木組織的導入開始
- ◆ H30 春：JA 中野市りんご・もも部会でふじ導入系統を百年ふじへ一本化
- ◆ H30 秋：百年ふじ苗木導入本数が 3,500 本に到達 ⇒ 面積換算 17.5ha
- ◆ H30 秋現在で百年ふじ面積 17.5ha ⇒ JA 中野市部会ふじ面積の約 28%に到達
- ◆ H31～36：中期的計画で百年ふじの導入を進める。1,000 本/年⇒6 カ年で 30ha 拡大計画
- ◆ 目標：H36 秋には JA 中野市部会ふじ面積の約 80%到達見込み（約 50ha）
- ◆ 生産量見込み：H36 で 500 t ⇒ 約 50,000 箱（10 kg 換算）



H30 11/8 撮影

シナノリップ 品種特性

品種名	交配・来歴等	収穫時期	貯蔵性	特性
シナノリップ	千秋×シナノレッド	8月末	常温で約10日	果形は横長 収穫前落果小！

中野市で 8/20 すぎにに成熟期を迎えるシナノリップ。真夏の高温下でも容易に紫紅色に仕上がるのが最大の特徴です！収穫はつがると同時期で、糖度も高く甘みを強く感じる食味です。本年の平均糖度は早生としては驚異の 15% 超え。試食会でも評価は『いいね』（高評価）です。

◆ 年度別苗木導入数（マルバ）

3年間合計本 3,419 ⇒ 面積換算約 17.1ha

	H27	H28	H29	H30	合計
シナノリップ	115	148	108	400	771

【シナノリップ生産基盤構築への経過】

◆ H27 秋：苗木組織的導入開始

◆ H28：JA 中野市りんご・もも部会で早生種期間品種に設定

◆ H30 秋：苗木導入本数が 771 本に到達 ⇒ 面積換算約 4ha

◆ H30 秋現在 JA 中野市部会りんご面積の約 3% に到達

◆ H31～36：中期的計画で百年ふじの導入を進める。400 本/年⇒6 カ年で 12ha 拡大計画

◆ 目標：H36 秋には JA 中野市部会ふじ面積の約 12% 到達見込み（約 16ha）

◆ 生産量見込み：H36 で 50 t ⇒ 約 5,000 箱（10 kg 換算）



H30 8/22 撮影